

三車火宅

さん

しゃ

か

たく





南無妙法蓮華經

むかし

たいへん ゆう ふく

昔あるところに大変裕福な

ちやうじゃ

長者がいました。

ちやうじゃ

いえ

たいへん ふる

おお

長者の家は大変古く大きな

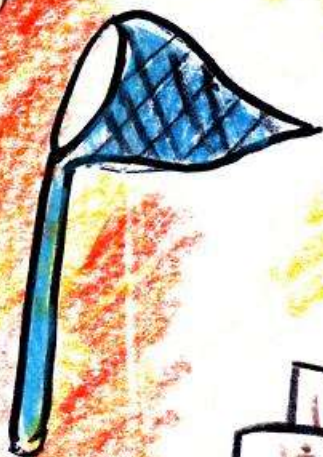
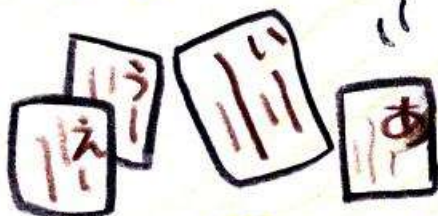
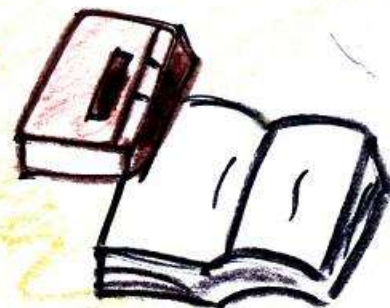
いえ

家でした。





ちやうじや こども
長者はたくさんの子供たちと
いっしょ す
一緒に住んでいました。





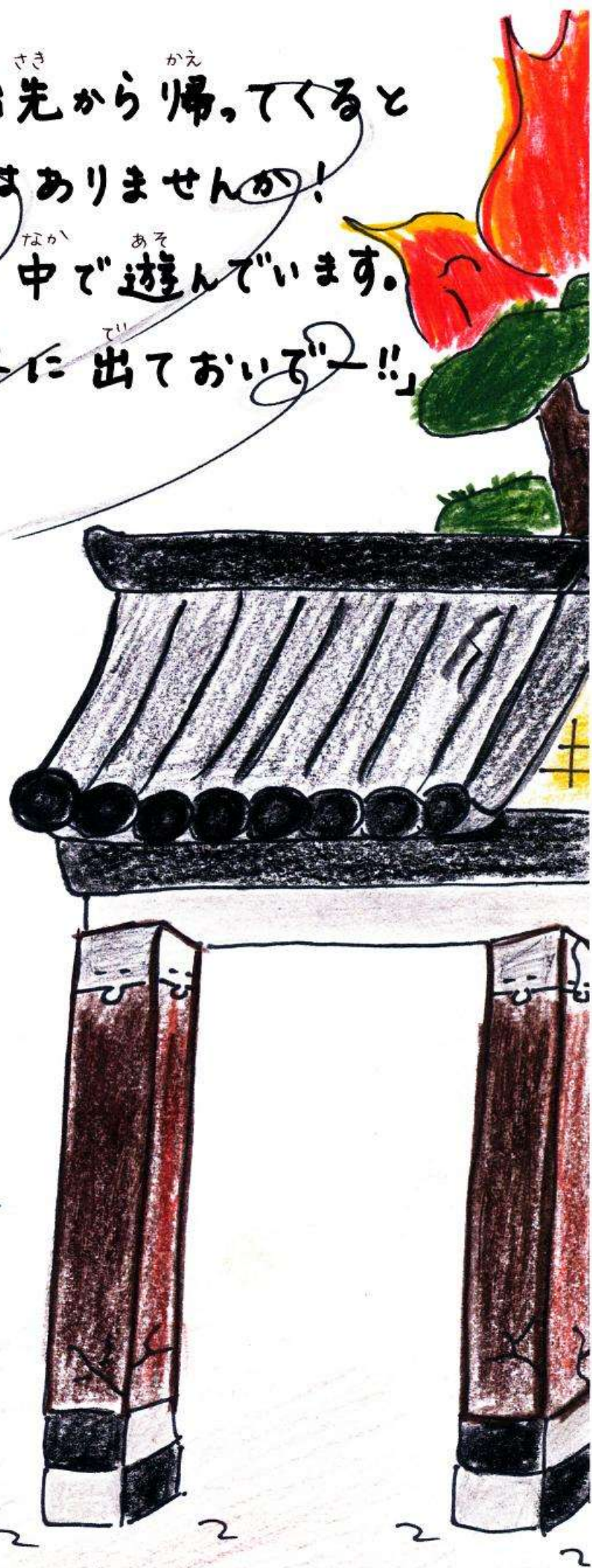
ある日、長者が外出先から帰、てくると
家が燃えているではありませんか！

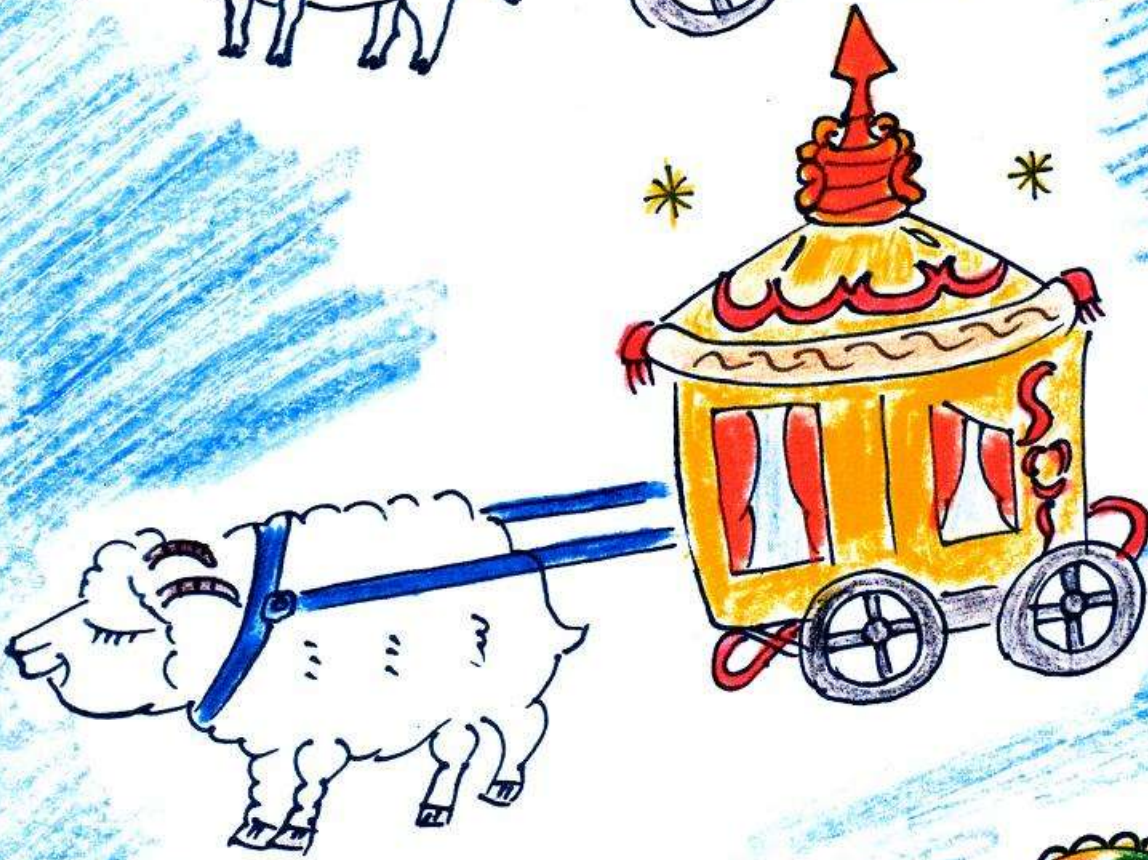
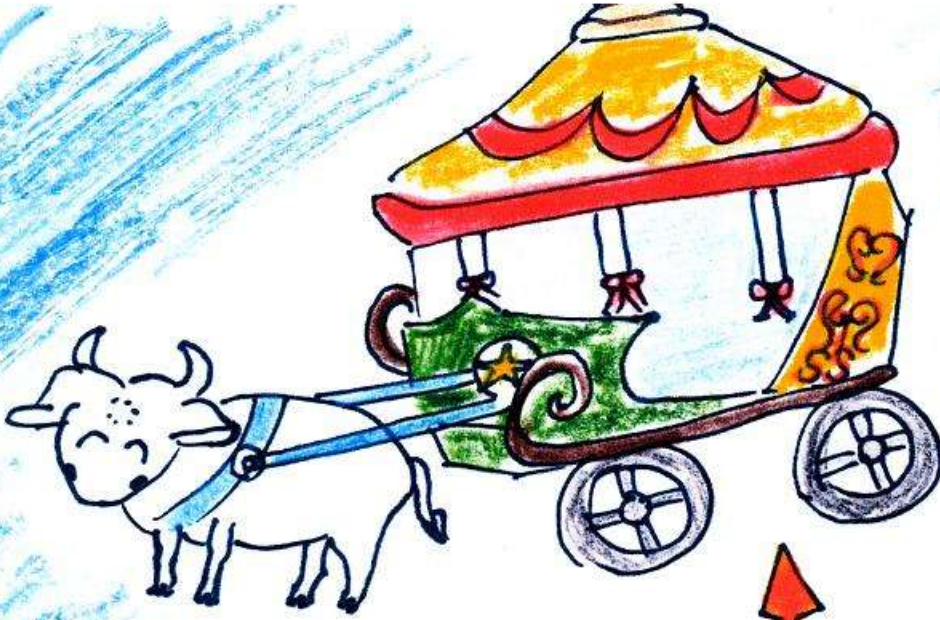
しかし、子供たちは中で遊んでいます。

「火事だぞ！！早く外に出ておいでー！！」



でも、この家には外
に出る門がひとつ
しかないのです。





こども 子供たちを ^{すく} 救うために、^{ちやうじや} 長者は
ある事 ^{こと} を ^{かんが} 考えました。

そして、子供たち ^{こども} に ^{さけ} こう叫びました。



「^{いえ} 家の外 ^{そと} にお前 ^{まえ} たち ^す の好きな
^{うし} 牛の車 ^{くるま}、^{ひつじ} 羊の車 ^{くるま}、^{しか} 鹿の車 ^{くるま} のおもちゃ
があるよ。早く ^{はや} 出 ^で ておいで！」

それを聞いた子供たちは
競い合いながら外へ全員
飛び出しました。





ところがどうでしょう。

そと^{そと}で^で出てみると、牛^{うし}の車^{くるま}も
ひつじ^{ひつじ}の車^{くるま}も しか^{しか}の車^{くるま}もありません。



ちやうじや きんぎんどう かがし
長者は金銀銅で飾られた

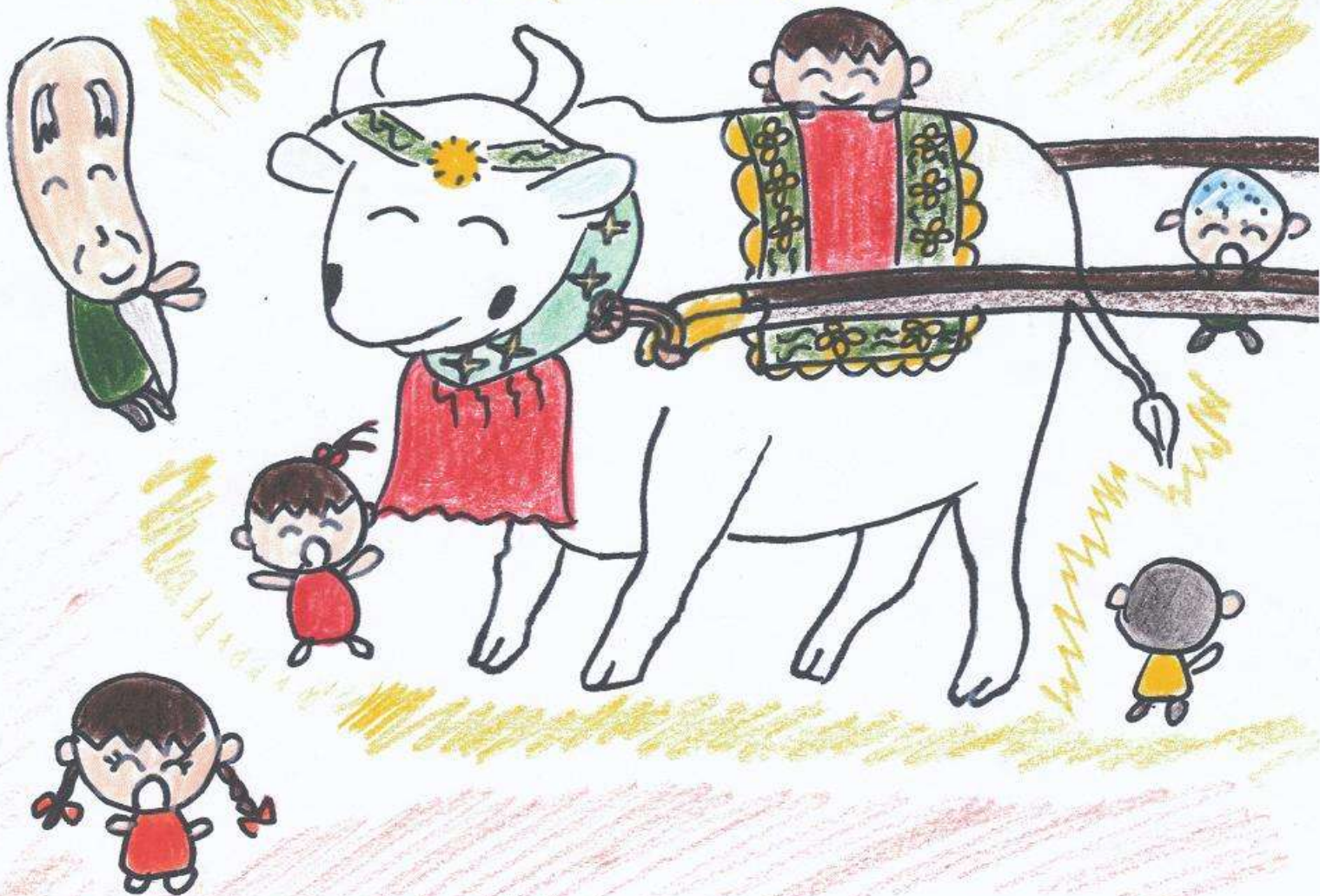
りっほ たぐいびやくごしや ぜんいん あた
立派な大白牛車を全員に与え

ました。

こども そうぞう
子供たちは想像していた

いびやう たいへんよろこ
以上のすばらしさに大変喜び

ました。



。。。あとかぎ。。。

この絵本は法華経の「法華七喻」という7つのたとえ話の中の1つ『三車火宅』というお話をもとに作られた絵本です。

この絵本の中に出てくる長者は仏様を表わし、荒れ果てた家は煩惱の世界、火事は人生の苦、子供達は私達、三種類のおもちゃ、羊車^(※1)、鹿車^(※2)、牛車(菩薩)は、方便の教え、大白牛車は一仏乗の教えを表わしています。

自分も仏になれると自覚できた舎利弗が、仏に他の多くのものたちも、皆、仏になれる事を教えてやってほしいと請うたのに対して、仏が説いたたとえ話です。全ての人間が皆平等に仏性を具えており、一切衆生がことごとく仏に成りうる「他力の救い」ではなく『自力の救い』により、仏の境地を目指すことができるというお話です。

一人でも多くの方に、この法華経の素晴らしさを理解して頂き、普段の生活の中にほんの少しでも生かす事ができたらうれしく思います。

※1 声聞 … 仏の説法を聞く事により、悟りを開こうとする衆生

※2 縁覚 … 仏の教えを縁として、自己の修行により、悟りを開こうとする衆生

